

内侍所櫃及鈴

由被申候、かめはおやの所にて口候、鈴成間敷之由五辻長橋被申、兩三人申は、御わび事申入候間、神事いたし候へと申つけ候間、おや所にて神事いたし候、内侍所にていたし候はで成候まじきにはかざるまじく候、内侍關白などは、いづれも宿にて神事の事候間、苦しかるまじきかと申候、とかく別勅にて可然之由申候、別勅にて祇候申候、かめ鈴祝をこさいに相傳一人なり、十五日、御神樂さだまるなり、略中かめ別勅めし出也、初まり時分雨晴なり、

〔年中行事秘抄賢所雜事〕天慶元年七月十三日、今夜戌刻、内侍所自温明殿遷御清凉殿、齋。辛櫃二合、

〔禁秘御抄上〕賢所

辛櫃二合

〔禁秘御抄階梯上賢所〕按御辛櫃二合事、年中行事秘抄引天慶記載之、西宮記同二合云云、寛弘二年十二月九日、奉納新御辛櫃時一合歟、永曆元年四月十九日同一合也、然時者此御抄以天慶記如此令書御歟、

〔時信記〕天承元年十月四日丁卯、頭中將召主計頭家榮朝臣於藏人所、令勘申内侍所、鈴二口可鑄替日時、有御件鈴二口破損也、件御卜於今月十一日時可被鑄之、頭中將内覽殿下、次被奏兩方被下給左近將監、遠顯依可勤仕行事也、

御卜怪異吉凶内侍所御辛櫃被付鈴二口落損、去九月八日巳時見付之

占九月八日時加巳八月神后臨丑爲用將、天空中徵明終河魁大裳、御行年寅上大吉、青龍卦遇聯

茄、

推之依神事不信所致歟、

天承元年十月四日

陰陽頭賀茂朝臣家榮

六日己巳、今日頭中將被示云、來十一日、可被打替内侍所鈴四口、件事可奉行者、於日時勘文者、當日